

2年生「赤ちゃんふれあい」疑似体験を実施

今年度も「赤ちゃんふれあい」疑似体験を実施しました。赤ちゃんとのふれあい事業は、今回で3回目です。初年度こそ実際に赤ちゃん親子においでいただき実施できましたが、コロナ禍ということで、昨年に引き続き疑似体験となってしまいました。毎年、立正大学社会福祉学部子ども教育学科教授の岡本依子先生の全面協力のもと、たくさんの赤ちゃん人形と妊婦ジャケットをお借りして実施しています。

3日間にわたっての実施でした。1日目は、2月24日（木）、鶴ヶ島市立南中学校主幹教諭の高沢聖子先生から、学年全体に対して「命の授業」をおこない、受精から赤ちゃんが生まれるまでの過程について学習しました。

2日目と3日目は、3月22日（火）・23日（水）に、クラスごとに赤ちゃん人形の抱っこや妊婦ジャケットの着用、絵本の読み聞かせ等の体験を行いました。

指導者には、「親学推進ネットこうのす」代表理事の志賀周子先生をお招きし、絵本の読み聞かせの実際となぜ読み聞かせが赤ちゃんに大切なのか、等についてのお話を伺いました。また、ボランティアとして、学校運営協議会委員の鈴木由紀子さんと河崎由加里さん、町教育委員の吉野さつきさんに協力していただきました。

来年こそは、コロナ禍以前に実施していたような形式の体験ができることを願っています。



